

大学の電子教材コンテンツの 生成と流通について

2012 NII Open House

2012/06/08

大日本印刷株式会社
教育・出版流通ソリューション本部
長丁光則

DNP

大学教科書(学術専門書)の「危機」と大学側の「不都合」

1. 絶版本の年々増加

2012年度採用(指定)教科書の約2%が
絶版・品切重版未定・版元倒産で採用不可

2. 学生の教科書不買(授業の品質・効果)

某国立大学工学部 22% (履修必修科目)

某私立大学法学部 48% (〃)

3. 改訂の長期化

3-5年分ストックしておく印刷本の限界

1. 絶版は電子化またはPODで継続出版

書籍出版の継続ができないならPDFで、またはコストが折り合えばオンデマンド書籍で。

2. 電子化で必ず安くなる(はず！)

紙・印刷・製本・物流コストはなくなる

3. どうせなら自分の授業に合った教材開発！

- 先生ご自身オリジナル書下ろし、共著
- 様々な教科書・教材の部分コンテンツ複合→コースパック

DNP もっとひろく教材素材を探索

理工薬系学術出版分野におけるコンテンツ細分化・複合希望

教養課程における定番授業「物理化学」の電子テキストを前提とした構成例



バロー著
物理化学上・下

- ・熱力学の章
- ・相対論、
波動論
- ・例題



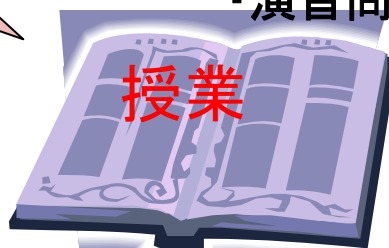
ムーア著
物理化学上・下

- ・基礎数学物理の章
- ・量子力学の章
- ・演習問題



アトキンス著
物理化学上・下

- ・分子基礎理論の章
- ・見やすいグラフ



電子教科書

デジタルコースパック

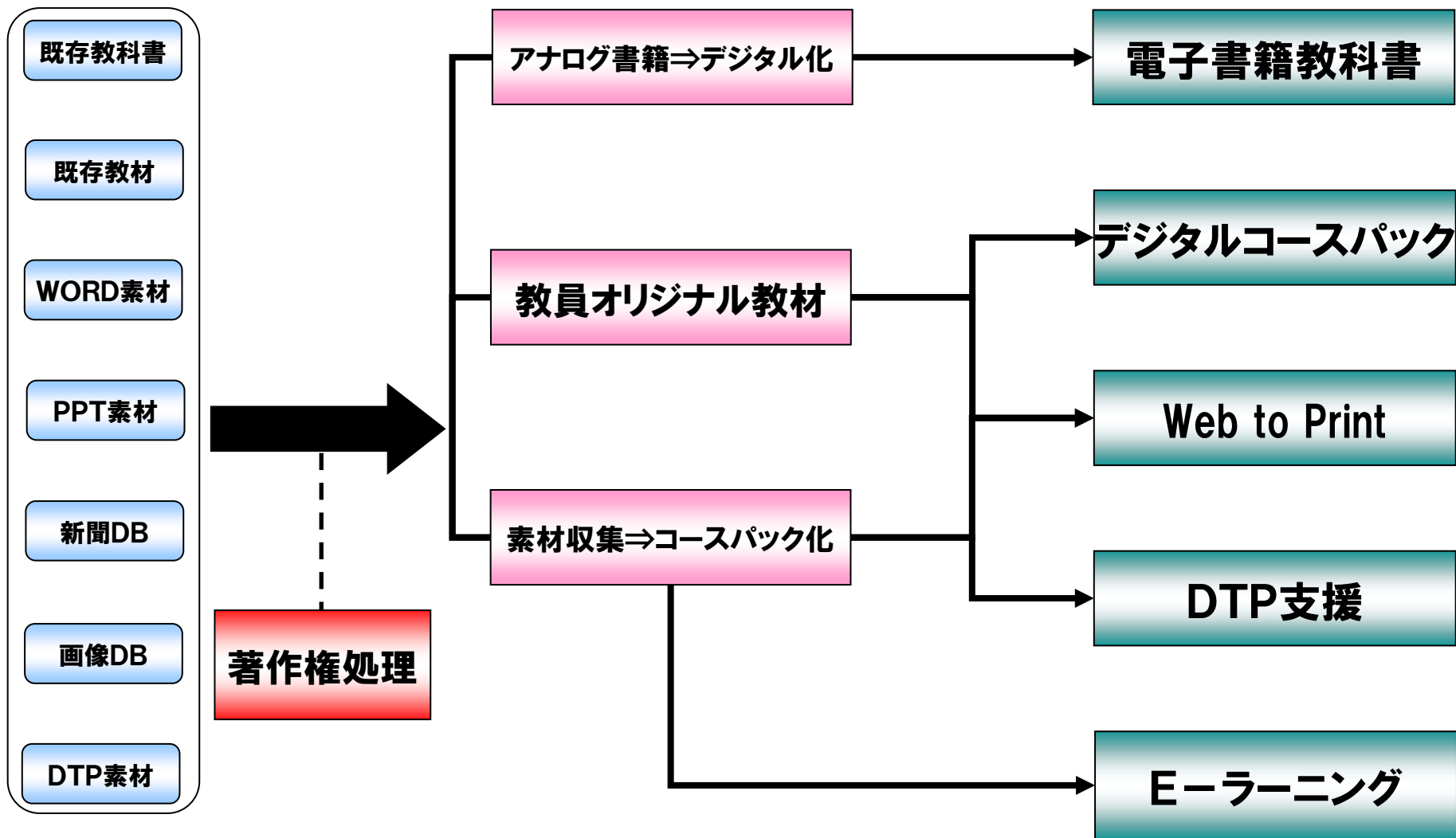
学術出版社のコンサーバティブ(原因)

1. コンテンツのデジタル化が**安易なコピーを助長**するのではないか
2. 電子書籍特有の**マイクロコンテンツ化**要望の出現(煩雑)
3. 価格に対する圧力が出てくるのではない
(**アカデミックディスカウント**的な)
4. 流通モデルの変化(**なかぬき**)
5. **著作権**管理の複雑化

大学(教員)の要望

1. 教員が自身の授業の内容構成に既存教科書コンテンツにとらわれない**オリジナル教材コンテンツ**を簡便に取り込み、運用したい。
2. 指定教科書にも関わらず学生の**購入率が50%を割っている(価格の問題) なんとか安く**
3. 履修科目の最終決定までの期間、**教科書なしで授業**を受けている 電子なら一定期間試用？
4. 指定教科書の電子化、カスタマイズ(マイクロコンテンツ化含む)が進まないなら、いっそのこと「自身および有志共同で書下ろすか」
→**教材電子化で書下ろしハードルが下がる**

ハイブリッド教材制作支援サービス



1. 大学一括ライセンス購入モデル

大学が当該授業の履修者数分のライセンスを一括契約する。

2. 学生の利用期間を限定する。

授業で使う6ヶ月あるいは1年限定で利用できる。あるいは、辞書、便覧など4年限定で利用できる。ただし一生手元においておきたい、と思えば追加ライセンス料で可能。